

〈史料紹介〉

アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著 『高貴なる用語の解説』 訳注（6）

谷 口 淳 一 編

はじめに

本稿は、アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー（Aḥmad Ibn Faḍl Allāh al-'Umari）著『高貴なる用語の解説』（*al-Ta'rif bi-l-muṣṭalaḥ al-šarīf* 以下『高貴なる用語』と略）のアラビア語原典からの日本語訳注である。本稿では、al-Droubiの校訂本150頁1行目から166頁末までのテキストに対する訳注を掲載する。著者および本書とそのテキストなどに関しては、訳注（1）の「はじめに」を参照されたい。

今回訳出した部分は、「第2章 委任状、任命書、委託状、裁定書、布令、布告の慣例」の一部で、訳注（5）に引き続き、各文書の本文に当たる指示部分（*waṣīya*）の例が名宛人（役職）別に示されている。今回の範囲は、トゥルクマーンの筆頭（*muqaddam al-turkumān*）に対する指示部分から始まっている。彼に求められることは、複数の集団に分かれているトゥルクマーンを、各集団を率いるアミールを通して統率することであった。訳注（5）で訳出したアミール・アルアラブおよびクルドの筆頭それぞれに対する指示部分と同様に、イクターの適切な管理が指示されており、トゥルクマーンについてもイクター制による支配が目指されていたことがわかる。

次に、部族民の統率者に対する指示部分の最後のものとして、山岳民の筆頭（*muqaddam al-ġabaliya*）に対する指示部分が記されている。この山岳民とはアラブ部族民の一部であり、激しい党派対立に悩まされていることが読み取れるが、山岳民という名称の由来や居住地域に関する情報は示されていない。他の部族民統率者に対する指示部分とは異なり、イクターへの言及はまったくない。

次にあげられているのは、弾弓長（*ḥakim bunduq*）に対する指示部分である。それによると、彼が率いる弾弓射手たちには高い倫理性が求められる。彼らの任務としては鳥を撃ち落とすことが説明されているが、軍事的な内容は一切含まれていない。

続いて、行財政に関わる高官に対する指示部分がまとめて収録されている。まず、文官の最高位ともいえる秘書長（*kātib al-sirr*）に対する指示内容が記される。秘書長は、スルターン名で発給される文書の作成と送達を負うだけでなく、駅遞の監督や機密情報の収集など、情報に関わる職務全般を担っていたことが、長文にわたる指示内容から読み取ることができる。

ナズイル・アルジャイシュ（*nāẓir al-ġayš*）は、軍務庁（*diwān al-ġayš*）の責任者とし

て、軍人・兵士の登録情報を管理し、会計部局（*dīwān al-istifā'*）と協力しつつイクターに関わる事項も管轄する。彼が管理する対象としてあげられているのは、アミールとその配下の兵士、様々な部族民の集団など、マムルーク朝の支配下にある軍人・兵士全体に及んでいる。

宝庫のナーズイル（*nāẓir al-hizāna*）は、その名の通り宝庫の管理責任者である。宝庫には様々な財宝が蓄えられていたが、これらは基本的に下賜するためのものであったようである。この職に対する指示部分には、高級な布で作られた衣類について特に細かく記されている。名誉の衣（*hil'a*）など布製品が下賜品としてもっともよく用いられたのであろう。

国庫のナーズイル（*nāẓir al-māl*）に対しては、各地にあるマムルーク朝政府の財源を管理し、国庫収入の増加を図るよう指示されている。そのために、様々な情報を毎日記録し、最善の運用を心がけなくてはならない。この指示部分には、多岐にわたる職務が列挙されている。

随伴主計（*mustawfi al-ṣuḥba*）に対する指示部分には、その職務として、スルターンに常に付き従い、書類の点検や記録だけでなく決裁をも行うことが記されている。他の部局と重複しているようにみえる職務も担っているが、指示部分の記述では、他部局との関係は判然としない。今回の訳出範囲には、以上8種の役職に対する指示部分が収められている。

我々は、2003年7月から「イスラーム世界における書記とその伝統研究会」と称して、1年間に10回程度の研究例会（輪読会）を開催し、『高貴なる用語』を読み進めてきた。今回の公刊部分は、2011年12月から2013年2月にかけて実施した計14回の例会（第94回～第107回）で読んだ部分に相当する。この期間の研究例会で訳注作成を担当したのは、伊藤隆郎、岡本恵、近藤真美、清水和裕、杉山雅樹、二宮文子、法貴遊、横内吾郎（五十音順）と谷口の9名である。この9名と篠田知暁が直接編集作業に携わった。各担当者が作成した訳文と注を見直し、その修正案を研究会参加者に示して意見を求め、必要に応じて修正を重ねた。訳語や表記の統一と最終的な調整および「はじめに」の執筆は谷口が担当した。

2007年度より、我々の研究会はNIHUプログラム「イスラーム地域研究」の活動の一部として実施しており、本稿はその研究成果の一部でもある。

なお、訳文中にある〔 〕は、校訂およびその底本であるL写本の頁の表示と、校訂テキストにない語句を補って訳した場合に用いた。また、原語のローマ字転写の際には、原則として辞書の見出しとなる形（名詞と形容詞は単数形主格、動詞は完了形3人称男性単数形）に直して示した。ただし、単数形にすると意味が変わってしまう語句などは、原文の形に即して転写した。

『高貴なる用語の解説』(6)

アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー

[txt. 150]

トゥルクマーンの筆頭¹⁾に対する指示部分

我らのために、トゥルクマーンの諸集団を統轄するように。彼らにジハードの準備を命じるように。彼らは信仰のトルコ人²⁾である。我らが彼に書簡を書いた(rasama)時には、彼らのうちに弓の弦に矢をつがえる者や、弓を引き絞ってさそり座にかかった月を見る³⁾者を放置しないように。

その数が多くとも、また彼らの家や天幕⁴⁾が〔互いに〕離れていても、彼らの諸集団を統轄するように。彼らを宥め服従させるように。筆頭¹⁾は服従を命じ、それによって彼の槍(samhari)はまっすぐに狙いをさだめるのである。彼らの矢は恐れられるものであり、彼らの剣は魔術によって強められた斑蛇⁵⁾である。彼らのために天蓋が掲げられ続け、血縁や種々の繋がり⁶⁾が彼らを我らにとりなし続ける。彼らのアミールたちに、アミールとしての職務を遂行すること、太鼓を毎夕打ち鳴らすこと、非常に熱心な者とそうではない者との間に差が現れるような仕事を命じるように。

イクター保有者(muḥabbaz)が死んだときは、我らか、あるいは最寄りのナーイブに知らせる。遺族がそのイクターを望んだときは、それに課される定められたものを提供させる⁶⁾ようにする。国庫以外に相続人がいないときは、相続権は国庫にある。というのも、それは神の可分の財であり、各ムスリムが一定の取り分を持っているからである⁷⁾。家畜に課されるザカート⁸⁾を徴収することを助け、また高貴なる布告に従って受益者や[ms. 67a]イクター保有者(muqṭa')に取り分を届けたり没収したりすることを助ける。至高なる神を畏れることは、取り分を増やす理由であり、筆頭¹⁾はそれを堅持し続ける。必要なことを行うように。[txt. 151]

1) muqaddam al-turkumān.

2) turk al-imān. turkumān との語呂合わせ。前者を後者の語源とする俗説もある [Lane : 305]。

3) 矢を射掛けるために、弓を引いて上方を向くことを指すものと考えられる。この一文は、トゥルクマーンを反抗させないようにという意図の指示と考えられる。

4) 校訂テキストでは azwāq となっているが、S1写本 [f. 101b] と S2写本 [f. 85a] に従って、arwāq (sg. riwāq) と読む。

5) arqam. arqam を殺した者にはジンの罰が及ぶとあって、人々はそれを殺そうとしなかった [Lane : 1139]。

6) taqdima muqarra. taqdima が意味するのは、相続にかかる手数料や文書のことか、あるいはイクターにかかる税(国庫の取り分)などの負担であろうか。

7) 『クルアーン』70章24節を踏まえた表現と考えられる。

山岳民の筆頭⁸⁾に対する指示部分

託された恩顧を知るように。以下のことを知るように。彼は、カイスとヤマンの2党派の筆頭とされた。この重要な命令が託されたので、彼のために、これらの房が集められ、旗が立てられた。一方の頬は赤く、他方の胸は黄色い。平野と山岳の民が、彼の許に集められた。各党派に忠実な者からの進言、仲間を推挙する両党派の有力者には事欠かない。我らが彼を筆頭にしたのは、たとえ山が崩れるか沈むかしても、彼が好みで不公平なことや身鼯屑をしないことを我らが知っていたからこそである。我らの覚えがめでたいままであるように。常に公正であるように。イスラームの言葉は、すべてを集め、イスラーム法 (ḥukm al-tašrī) に包含する。彼らの不和をなくすように。一方の党派が他方に借りを返すよう求めることを止めさせるように。神の使徒——神が彼に祝福と平安を与えんことを——は、「ムスリムたちの血は平等であり、下層の者も責任を担う」⁹⁾と言っている。

このハディースをよりどころとし、それに従って発言し、手出しを控えるように。彼ら全体を永続する和解に導くように。それによって、負傷者は癒され、傷が癒え、殺された者は誰もが一族の許に葬られる。一方の党派が訴えともう一方が同じような訴えを起こすが、そのような場合いずれの党派の訴えも無効となる。[txt. 152] 流れ出て (tata“aba) いた血を止め、裂けていた裂け目を修復し、両部族を共通の一人の父祖から出た子孫たちという立場に置き、彼らの力をあらゆる背信者へ向けるように。[ms. 67b] つとめて彼らを懐柔し、惜しみなく贈り物をして彼らを繋ぎとめておくように。彼らの心が互いに純粹になるようにし、今や彼らの間に入り込んだ悪魔が永遠に大地に留まろうとしていること¹⁰⁾を彼らに知らせるように。両党派の各々に、古くからの優先的な権利¹¹⁾とイスラームの最初期における偉大な地位の権利を教えるように。彼らはその光の輝きであり、ムハージルーンとアンサールを含む父祖たちの継承者なのであるから。彼らの熱意をジハードに集め、神の敵どもと我らが勝利の王朝の敵どもに対して集中するように。彼らの剣を鞘にしっかりと入れさせ、彼らが奉仕する足取りを、ハッファーン¹²⁾の獅子が茂みから飛び出すような〔荒々しいものに〕させないように。

彼らにジャーヒリーヤ時代のような訴えを止めさせ、人々からそのような災難を軽減するように。彼らは〔自分の行為に対して〕責任を問われるのであり、「ラッパが吹かれるとき、

8) muqaddam al-ḡabaliya.

9) Abū Dāwūd および Ibn Maḡa の両 *Sunan* 等に収録されているハディースの一節。

10) 悪魔が大地に留まるとは、悪魔が人間を誘惑しに来たことを意味するのであろう。「悪魔どもに惑わされて大地で狼狽する者のように」という『クルアーン』の一節〔6章71節〕を踏まえた表現か。

11) ḥaqq sābiqa. ここで言う優先的な権利とは、イスラーム入信時期が早いほど戦利品の分配などにおいて優遇するという方針に基づくものである。カリフ＝ウマル1世（在位13～23/634～644年）が始めた施策の一つ〔「サーピカ」『岩波イスラーム辞典』〕。

12) Ḥaffan. クーフ近郊の地名。ライオンが多い土地として知られていた〔“Ḥaffān,” *Buldān*〕。

その日には彼らの間にいかなる血縁関係もなくなり、たがいに尋ねあうこともない¹³⁾というのを彼らに知らせるように。その山岳地帯の峰々に、老いた秃鷹 (nasr qaš'am) や斑蛇のごとき彼らを「おとなしく」住まわせるように。それは、必要な時々、彼らが力と忍耐の民、強い力の持ち主として、従兄弟 (ibn 'amm) に罪を着せたり、甥 (ibn uht) —— 彼を裁くことは息子を裁くことに等しい —— 「を裁いたりするの」ではなく、敵どもに立ち向かわせるためである。神を畏れることは、神の禁令 (ḥurmāt) を重視することにある。その禁令とは、甘美な水をたたえ多くの人が集まる泉¹⁴⁾であり、従われるべき命令である。「その御名においてお前たちがたがいに尋ねあう神を畏れ、近親のつながりを尊重せよ」〔クルアーン：4章1節〕という偉大なる神の言葉のごとく「近親者間で相争うべき」ではないのである。

弾弓長¹⁵⁾に対する指示部分

高い倫理と最良の振る舞い、それ以外のさらに良きものを身につけるようこの集団（弾弓射手たち）に命じよ。また、言の定まらない者の批判からは超然としているよう命じよ。〔ms. 68a〕ただし、この術については別である。〔txt. 153〕上述の倫理や良き振る舞いなどがあつたうえで、この術においてこそ称えられるのであるから¹⁶⁾。この術には古くからのすべて (ḥaqq kull qadim) があることを識れ。決して満足するな¹⁷⁾。そうすれば、寛大な者として、栄光が汝に対して否定されなくなる。各人に自分の立場を越えさせず、また各々が出かけていくときも、天幕の奥では弓を引かせないようにせよ¹⁸⁾。

この集団から、別のものと取り替えようとしても隠しきれない汚点を清め、媚びへつらい

13) クルアーン：23章101節。この一節の主旨は、最後の審判においては、部族などの血縁関係は無意味となり、各人が自分の行為に基づいて裁かれるということである。

14) Baššār b. Burd (2/8世紀)の詩句を援用した表現〔研究篇：199頁〕。

15) ḥākim bunduq, bunduq とは、弩あるいはクロスボウの一種である qaws al-bunduq (弾弓) に用いる弾丸であるが、ここでは弾弓の意味でも用いられている。カルカシャンディーは「かつては、スルターンが弾丸の射撃に関心がある場合、それに関心があるアミールたちの中から射手たち (rumāt) の長 (ḥākim) を任命することになっていた」として、この役職宛の文書例を2点挙げている〔*Ṣubḥ*, v. 12: 269–273〕。しかし彼の時代にはエジプトとシリアの文書庁からこの役職に文書が発行されることはなく、その事情はフトゥーフの服装と同様であると記している〔*Ṣubḥ*, v. 9: 255〕。フトゥーフ精神の具現化と組織化に力を注いだカリフ＝ナーシル (在位575–622/1180–1225年) は、フトゥーフのズボンなどとともに射撃を統制しようとした〔世界史史料2：192–194頁〕。このように、弾弓による射撃はフトゥーフに深く関わる術であり、それゆえ、射手には高い倫理性が求められたのであろう。

なお、ペイルート版刊本は、本節の冒頭から「随伴主計に対する指示部分」の末尾までに相当する部分（校訂：152頁15行～165頁8行）のテキストが欠落している。

16) 「言の定まらない者…称えられるのであるから」の部分については次のような解釈も成り立つか。「言の定まらない者の批判からは超然としていてもよいが、この術については別である。上述の倫理や良き振る舞いなどがあつてこそ、この術において称えられるのであるから」。

17) 「現状に満足することなく、さらに術を高めよ」という意味か。

18) この文の「また各々が」以下については、次のような解釈も成り立つか。「また各々が天幕で休んでいる〔非番の〕時には、姿を現しても弓を引かせないようにせよ」。

を遠ざけるように。道の本通りには塵があつてはならないからである。疑わしいことを遠ざけるように。この集団が卑しさを身につけることがあつてはならないからである。大物鳥¹⁹⁾のみを狙わねばならない。小物は獲物とは見なされないからである。自分の裁定の一つたりとも、〔本来あるべき〕権利から離れることがないように。優先権（qudma）を持つ者の権利を蔑ろにしてはならない。それは翼を押さえて運ばれるが、その他のものは足かせ²⁰⁾をつけて運ばれるからである。

このことのために腕をまくり上げ、衣の裾を垂らせ。朝の始めと終わり、そして夕方であっても、神が汝の上に定めたことを優先して行え。「昼間の始めと終わりに、そして宵の口に、必ず礼拝を守れ」〔クルアーン：11章114節〕。汝が配下の者たちの間で裁定を行う際には、不正を被った者の求めに気を配れ。配下の者たちが優先権の裁定に則って、「我々には、定められた持ち場のないような者は一人もいない」〔クルアーン：37章164節〕と言う場合を除いては、彼らのうちの有力な者の権利を認めよ。許可されることのみを行え²¹⁾。ティムならある大きさ、スーグならある形に満たない場合には²²⁾、大物に関する汝の基準を下げないように。

汝は、弓二つほどの近さか、もっと近いところ²³⁾にいる神に監視されていると知るように。鷲が汝の頭上を旋回しているなかで、天を飛ぶ禿鷹²⁴⁾を打ち落とし血塗れにさせたとしても、尊大にならぬよう用心せよ。仲間たちのある者が、別の者を不当に扱うことを禁じよ。彼らには良い振舞いを命じよ。〔txt. 154〕そうすれば、得意然と地上を歩いている²⁵⁾彼らも、天ではそうした行いをしなくなるであろう。彼らは皆、あらゆる土地で客となり、行き来する鳥を求めて冬および夏の旅²⁶⁾をする者であるのだということを、彼らに知らせめよ。〔ms. 68b〕罪深い行いに用心するように。そのせいで自分の足を滑らせたり、古くからの優先権を失くしたり、仲間から遠ざけられたり、同僚の中から外れたり、失職を余儀なくされることのないように。善行者の中にいる、仲間内で悪事を働く者や、自身の分から外れる者、相応しからぬ行いをする者には用心するように。そうした者と一日でも一緒にいれば、そのことのみが知れ渡り、彼が数年の間に行ってきたことはすべて消え失せてしまうであろう。そうした者のせいで彼は非難を向けられ、自分の優先権を放棄することになって、その者と一

19) ġalil al-ṭayr. 射手たちが鳥打ちの際に獲物として狙うべきとされていた鳥のこと。ウマリールは本書においてこの大物鳥の規定について述べており、そこでは14種類の鳥の名前が列挙されている〔校訂：348頁〕。

20) 校訂テキストでは sibāq となっているが、正しくは sibāq と読むべきである。ここでは文章の語調を整えるためにこのような読み方をしているものと思われる。

21) 校訂テキストとL写本では lā yaf'alu と読めるが、ここではD2写本〔f. 62b〕とF写本〔f. 73a〕の弁別点に従って、lā taf'al と読んだ。

22) ティム（tim）とスーグ（ṣūġ）はいずれも、校訂348頁において大物鳥として挙げられている鳥の名前である。ティムは鴨に類する鳥。スーグについては不詳。

23) 『クルアーン』53章9節を踏まえた表現。

24) naṣr ṭā'ir. ṭā'ir の語は底本（L写本）には存在せず、D2写本にのみ見える。

25) 『クルアーン』17章37節を踏まえた表現。

26) 『クルアーン』106章2節を踏まえた表現。

緒に、「ああ空しい人生だった、あの苦労も無駄になってしまった」と言うであろう。

敬虔さを固持するように。それは堅固な拠り所であるから。また、真実〔を固持するように〕。それは人々の前に明らかになるから。悪事を働く者が手にしている弓によって得られるものや、その弓によって聞かれる〔獲物の〕うめき声には用心するように。誰に対する裁定も急いではならず、全員がそれに同意し、それが弾弓〔隊〕の定めにかない、シャリーアの定めに戻ることがないように。彼の配下の者たちに〔意見の〕一致が見られ、裁定が明らかになったなら、議論の余地なくそれを²⁷⁾急ぎ決定する。罪を犯した者を立たせて全員に示し、〔裁定を〕彼に言いわたし、権利を取り上げる。そして、以上のことについては、常に記録されるようにする。一人一人について、その首に鳥が結びつけられている。そして、彼にその書が突きつけられ、彼はそれを開いて読む²⁸⁾。至高なる神は、撃ち落とされた鳥の如く、彼の敵どもを死に近づける。また、自らの弓で鳥を撃ち落とすように、彼を妬む者どもの命を鎌で刈り取り、弾丸（‘ayn）で撃つ。〔txt. 155〕

秘書長²⁹⁾に対する指示部分

服従をもって受け入れられ、それによって戦いが行われる命令を、我らに代わって発するように。彼の筆にとっての剣は勅令である。槍の穂先が届かず、帆を上げた〔ms. 69a〕船や手綱を緩められた馬でも達しないようなことを、敵の王どもに知らしめるように。また、日々が過ぎてても残るようなことを我らに代わって書き記すように。我らがその報酬を受け取り、彼も受け取るような良き行いを不滅のものとするように。彼の許にいる者に〔文書作成を〕任せても、あらゆる任命書を飾る文書術の粋〔を集めた文章〕を書き取らせるように。槍を下に隠す重大事を実行するように。〔それを運ぶ〕駅通の馬（ḥayl al-baridiya）と競うことを風さえもためらう。諸国の隅々から我らの許に届き、隅々を照らす昼の光の覆いが包む内にある諸国の情報を得るように。我らの許でその上奏を首尾よく行い、その遂行によって奉仕の義務を果たし職務を完遂するように。

従われるべき我らの布令の内容に鑑み、また、彼の考えに委ねられた結果、彼自身がその考えの正しさに耳を傾け、従う〔べきと判断した〕ことに鑑み、我らに代わって返答するように。また、我らの許より発するものは、遠隔の地をめぐり、発するごとに増え、エジプトとイラクの間を移動し、伝書鳩によって運ばれ、汗馬（ḥayl ‘itāq）によって伝えられる。これらを確実に送付するように。〔txt. 156〕

ナーイブたちにとって曖昧なことがらを、彼らに〔それらを〕解らせる我らの見解の光に

27) L 写本をはじめとする諸写本に基づき、‘aḡḡala bi-al-qaṭ‘i（急ぎ決定する）の後に「bi-hi」（それを）を補って読んだ。

28) 『クルアーン』17章13節を踏まえた表現。なお、鳥をつかって吉兆を占う古代アラビアの習慣をふまえ、「首に鳥が結びつけられる」という部分での「鳥」は運命を意味すると解釈される〔クルアーン（井筒訳）：中巻95頁；クルアーン（藤本他訳）：1巻351、365頁注3〕。

29) kātib al-sirr. 秘書長の職務については、太田（塚田）2014：38頁を参照。

よって解らせるように。また、彼らに秘書長が途切れることなく送っている我らの遍き恵みによって、彼らの許にある絆（*asbāb al-walā'*）を確認させるように。また、各ワーリーが自らの管轄のうちにあることがらを実行し、管轄を踏み越えて行うことなく、それを超えて望むことのないよう、彼らに命じるように。また、駅通の整備、遠近各地の情報の調査、騎手と彼らが担う任務（*maṣlaḥa*）に責任をもつように。馬の背に乗って広い谷底を流れる様々な報告³⁰⁾、忠告者や〔情報を携えた〕来訪者、そういった者たちのもっている秘密を誰も割ることのできない岩に隠す者の情報を、駅通を通して手に入れるように。〔もたらされるはずの情報を隠す〕そのような者たちは国中至るところにいる³¹⁾。また、以上の者たちのうち、務めについている者や、神が嘉する真摯な忠告をなす者たちの権利を知り、定められた我らの褒賞や〔ms. 69b〕人心を惹きつけ引きとめる我らの恩賞についての諸規則にある慣例を忘れないように。

努力して機密を守るように。機密がどこかへ消えてしまうなどは論外である。また、機密を知らせてくる者たちにさえ、〔別の者から聞いた〕機密は隠すように。3人の秘密は隠しごとではないのだから³²⁾。〔機密を知らせてくる者とは、〕調査を担当する（*rabi'at al-naẓar*）諜報活動者（*kaššāf*）、あらゆる情報をもたらす者、幻影よりも早く道を進んで敵の喉元に剣の鞘尻³³⁾よりも深く入り込む者である。彼らは、馬を繋ぎとめる者（*ahl al-ribāṭ li-al-ḥayl*）であり、彼らの中には夜のごとくに〔敵に〕近づき達する者しかいない。〔txt. 157〕

歩哨、監視者、また煙や火を上げる時の確かな印を知っている者は、街道に沿った各地にいる。それは、彼らの誰一人として烽火台が見えないことがなく、彼らが烽火を上げ、烽火台が山頂に火をいただく山のごとくになることによって、あらゆる知らせが〔途中で〕途切れることのないようにするためである。

また、伝書鳩や便箋（*biṭāqa*）を運ぶものがある。それは、そのもの以外には運ぶことができない報告を運ぶものであり、雲の川へと飛び込み、1ヶ月、またはそれ以上かかる距離を、昼間の1時間で我らの許へと情報を持ってきては、小屋には向かわず旅に出るものである。それは兆しをもたらす使いであると知られている。何故ならそれは、2対、3対または4対の翼を持つ使者たち³⁴⁾だからである。

これら以外に選ばれ、秘書長の許へと駱駝でやって来る者の中に、王の使者たちや、安全

30) 駅通によって情報が運ばれていることを示している。なお、研究篇200頁によれば、Kutayyir 'Azza (723年没)、もしくは Ka'b b. Zuhayr (没年不詳。預言者ムハンマドと同時代の詩人)の作とされる詩の一節を下敷きにした表現。

31) 研究篇200-201頁によれば、Miskīn al-Dārīmī (7世紀)による以下の詩の一節を踏まえた表現。

彼らは国中至るところに住み、彼らの秘密は割ることのできない固い岩にある。

32) 研究篇201頁によれば、al-Ṣaltān al-'Abdī (7世紀)の以下の詩の一節を踏まえた表現。

あなたの秘密は一人だけが知っている。3人の秘密は隠れていない。

33) *dubab*. 剣が鞘尻まで入っている状態は、これ以上剣を鞘に差し込むことができない状態であり、ここでは敵にこれ以上ないほど深く入り込むことを表している。

34) 『クルアーン』35章1節を踏まえた表現。

の保証を求める者 (musta'min) たちの集団がある。秘書長は彼ら全員の望みを代弁し³⁵⁾、たどたどしい状況報告を明確にする者である³⁶⁾。彼らを寛大にもてなし、我らの高き諸門での滞在を彼らにとって好ましいものとするような、来客のための経費を増やすように。

彼は我らの許にいる信頼の置ける相談役³⁷⁾であり [ms. 70a]、誰もが彼の仲介を通さなくてはならない仲介者 (safir) であると知るように。彼が書けば我らの指となり、彼が話せば我らの舌となり、遠くの王に手紙を送れば我らの表書きとなり、敵の喉元を狙って意見を述べれば我らから放たれた矢と槍の穂先となる。自らをあるべき場所に置くように。また星々を見るときのように、我らの許での高き序列を注視するように。[txt. 158] この序列に関して至高なる神を畏れるように。また自身の宗教を畏れるように。至高なる神の許では芥子一粒の重ささえなくならない³⁸⁾からである。そして悪い精算〔結果〕を畏れるように。主なる神を畏れるように。

また、イスラーム諸国³⁹⁾にある文書庁の書記たちは、確かに⁴⁰⁾、彼の部下である。彼らの導きは、彼の機敏さが彼らに与える喜びによる。彼らのうち、非難されることのない者だけ、また自分の前に座らせなければ書記が見当たらなくなるような者だけに書かせるように。

指示部分は彼の口述によって書き取られ、〔その内容は〕彼の〔書く〕任命書の冒頭部から明らかである。多弁を弄する必要はなく、代理の者が何かを述べる必要もない。この集団 (書記たち) や彼らに類する者のうち、彼の許に来る全ての者のたどるべき道は⁴¹⁾彼の命令に服従することである。なぜならば、彼は我らの代わりに命令しているのだから。また、彼に耳を傾けることである。なぜならば、彼は我らの指示を受けているのだから。

神の支援を受けし駅通の牌⁴²⁾を彼の手許に置き、彼の許から分配するように。全ての高貴

35) 校訂テキストでは、wa kullu hā'ulā'i mā la-hum となっており、hā'ulā'i の部分が全写本で重複して記されていると注記されている [校訂：157頁注15]。しかし、これは重複ではなく綴りの類似した語句であり、wa kullu hā'ulā'i huwa li-āmāli-him と読むべきである (下線部が重複とされた部分)。また本文では、左記の huwa (彼) が秘書長を指しているものと考えて訳してあるが、これを kullu hā'ulā'i (これらの者たちの各人) であると考えて訳すことも可能である。その場合は「彼らは皆、それらの人々の望みを代弁し、たどたどしい状況報告を明確にする者である」という訳文になる。

36) 校訂テキストでは、lisān al-muḡamḡam (たどたどしく語る者の舌) となっているが、L 写本に従い lisān の後に ḥālī-him (彼らの状況) を補った。

37) Abū Dāwūd と Ibn Māḡa の両 *Sunan* で挙げられているハディースに基づく表現 [研究篇：202頁]。

38) 『クルアーン』21章47節を踏まえた表現。

39) al-mamālik al-islāmiya. この「イスラーム諸国」とは、マムルーク朝領内諸地域のことであろう。

40) 校訂テキストでは、hum 'alā ra'iyati-hi となっているが、L 写本に従い 'alā の後に al-ḥaḡiqa を補った。

41) wa-sabīlu kulli wāqifin 'alay-hi. 原文は、任命書 (taqlid) の末尾で使用される表現「それを知る全ての者のたどるべき道は」と全く同じである [訳注 (3)：48頁, (4)：36頁]。ただし、ここでは文脈に合うよう訳文を少し変えている。

42) lawḡ al-barid. 駅通制度において使者 (baridi) が携帯した銀製ないし銅製の札。モンゴル帝国の駅通制度で使用された牌子 (< pā'iza ペルシア語) と同様のものと考えられる [研究篇：202頁；*Subḡ*, v. 14：371；Silverstein 2007：165, 173]。

なる認証署名は彼が手ずから書き写し、彼以外を通さないように。彼にはあらゆる重大事について、準備する者を任命したり相談したりすることもできる。彼に敵対する者は、自分に譴責の矢を射掛けることになる。〔txt. 159〕

ナーズイル・〔アル〕 ジャイシュ⁴³⁾に対する指示部分〔ms. 70b〕

この官庁（軍務庁）の業務を完全に把握するように。この官庁に名前が登録されている全ての者を召喚するように。その際には各自の名前が呼ばれ、各自の容貌によって本人確認がされる。〔何事も〕十分に満足がいくやり方で行うように⁴⁴⁾。閱兵において、先行させるべき人物を先行させるように。この職務の特性、我らの兵団の名簿、誰が掲げるかが明示されている旗を知悉するように⁴⁵⁾。全ての会計について釣り合いを取り、あるべき方法か、それに準じる方法で帳簿をつけるように。全ての死者の案件を正しく扱うように。死者の死亡届は遺産庁⁴⁶⁾からもたらされ、あるいは戦闘中に筆頭か隊長（naqīb）がその死に立ち会った場合には、彼らがナーズイル・アルジャイシュにその件について知らせる。監査報告書（kašf）の内容を書き記し、照合されるあらゆる調査を良いと認められるやり方で行うように⁴⁷⁾。その結果、彼が関わる事柄について尋ねられれば、それを隠さず、監査を受ければ、その件を監査員（ahl al-kašf）に否認せず、真実を明らかにするように。

あらゆるムラッバア文書の事柄やそこに書かれてあるイクターの分与地、作成される布告や全ての事柄がその結果として生じる勅令、彼の許で確定され〔txt. 160〕記録⁴⁸⁾に書かれて、その内容について彼の確認にまわされるものに注意を払うように。

また、以下のことを知るように。ナーズイル・アルジャイシュの後ろには会計部局（diwān al-istifā）の者がおり、全てのイクター〔関連文書〕の作成、増減などイクターに関するあらゆることについて、彼と共に対処する。会計部局の者は、ナーズイル・アルジャイシュの後ろにいる者ではあるが、彼の行為は従われるべき我らの命令によるものである。それゆえ、彼の後ろにいる〔会計部局の〕者と〔協力して〕精査するように。また、あらゆる無効なものとして捏造と偽造に用心するように。そして、彼が縁故によらず指名された人物であり、監督

43) nāzīr [al-]ğayš. 校訂テキストでは nāzīr ġayš としているが、複数の写本で定冠詞 al- が記されている〔校訂159頁注2〕。

44) 「十分に満足がいくやり方で（qiyāman bi-ğayri-hi lam yarḍa）」の部分で、最後の語を yuraḍ と読み「訓練されたやり方で」と解釈することもできる。

45) 名簿に記載されている人物がどの集団に所属しているかを把握しておくようにという意味で、あると考えられる。

46) diwān al-mawārit al-ḥašriya. 相続人のいない死者の財産などを取り扱う官庁〔研究篇：202頁〕。

47) この一文については、次のような訳も考えられる。「監査報告書の内容を明らかにするように。すなわち、彼はあらゆる状況を明らかにすることに直面するが、良いと認められるやり方でそれを確認するように」。

48) ta'liq. マムルーク朝の官庁において官僚が行った日々の記録のこと。その日に発生した収入、支出、賃借、その他会計に関わる全ての事柄について記録された〔熊倉和歌子 2011：39-40頁〕。なお、この語は校訂テキストでは t-l-q と綴られているが、L 写本など各写本および Ṣubḥ, v. 11：325に従い修正して読んだ。

を委ねられた人物にして、遊牧民と定住民から構成され神の支援を受けし我らの兵团全てを調べる人物であることを確かなものとするように。

記録されるべきことに関するアミールたちの文書 (mudrağ) や [ms. 71a] 彼らが抱える兵士一人一人の登録や抹消を、ナーズイル・アルジャイシュが統轄する。以下も同様に彼が統轄する。すなわち、会計の照合や、高貴なる布告の日付あるいは会計記録⁴⁹⁾によって〔イクターを〕得る者、神の支援を受けし軍団において前衛あるいは後衛を務める者、アラブやトゥルクマーン、クルドの諸集団、筆頭に率いられているか割り当てられた地方の掌握が課せられている者たち、あるいはその他見過ごされることなく登録されており、広げられるあらゆる旗印に属する遠くにいる者や近くににいる者を。それゆえ、彼はこれらあらゆる者たちに対して常に備え、その者たちのために心積もりをし、我らの問い合わせに対してしがらみなしで答え、覚え書や参照するものなしで済むよう〔何事も〕記憶しておくこと。[txt. 161]

宝庫のナーズイル⁵⁰⁾に対する指示部分

彼の監督で各宝庫の奥までも満たすように。そこに様々な良きものを集めるように。そこに、支出のために蓄えられ、放出のために保存されているすべてのものを準備するように。また以下のようなものを集めるように。枝を広げ、根を深く下ろし⁵¹⁾、まとめあげ、微細にわたる点で海に比されるもの。キンタール⁵²⁾単位でなければその重さを量れず、物語 (uṣṭūra) の如くその数を数え切れないもの。太陽の光芒とその輝きを競い、その名誉の衣 (ḥil'a) のすばらしさを庭園の花々⁵³⁾と競い合うほどの高貴なる下賜品⁵⁴⁾として準備されるもの。その衣は描くこともできない多様な色彩をもち、聖者たちはそれを間違いなく楽園〔の衣〕であるとみなす。「彼らの着物もそこでは絹製となる」[クルアーン：35章33節]。その下賜品は、アッタービー布⁵⁵⁾やサテン布、ムシヤルバシュ布 (mušarbaš), ムカンドス⁵⁶⁾、そ

49) siyāqa. マムルーク朝の官庁で使用された会計記録の一つ。捕虜や囚人の人数、家畜の頭数とそれに関わる経費と収入、武器等に関わる特殊な計算を必要とする科目別の記録を指す [熊倉和歌子 2011：47-49頁]。

50) nāzir [al-]ḥizāna. 校訂テキストではL写本とB写本に従い nāzir ḥizāna としているが、その他の写本では定冠詞 al- が記されている [校訂161頁注2]。

51) 樹木を用いて広さと深さを表す比喩表現。物事の根幹と末梢をも意味する。

52) qintār. 比較的重いものを量る重量単位。1単位の重量は、50kg前後から100kg以上と地域によって差がある [新イスラム事典：364, 567頁]。

53) waṣā'i al-rawḍ. 天上の楽園にある庭園に植えられた花々の意。布の模様の比喩。

54) taṣrif. マムルーク朝時代には taṣrif と ḥil'a は同義語として用いられたが、区別されることもあり、その場合は前者が上位概念で、褒美あるいは下賜品全般を指し、後者はその一部の名誉の衣などを指した [Diem 2002：37-38, 132-134]。

55) 'attābi. 絹や木綿で織り上げる厚手で波紋のある織物。バグダードのアッタービーヤ街で製造されていた [イブン・ジュバイル：307, 501頁注32; Ibn Ġubayr：226; Dozy 1845：436-437]。

56) muqandas. カワウソの毛皮 [Dozy 1845：328, n. 2]。

して金糸による美麗な⁵⁷⁾あらゆるティラーズ⁵⁸⁾、また金糸の布、もしくは⁵⁹⁾それに比肩されるものでできたものを含む。つまりそれは、〔ms. 71b〕剣の主や筆の主を高めるものであり、最初に奉職するときを除いては恩寵（in‘ām）としてのみ与えられるあらゆるものである。また、これらとともに各種の使用済みの品（musta‘mala）欠けのある品（nāqīṣ）補われた品（mukammala）、またティラーズ工房（dār al-ṭirāz）から運ばれるものや、織物や織物商人からやってくる商品のうち大いなる称讃に足るもの、また高き宝庫（ḥizāna ‘āliya）にとっておくべき諸目を集めるように。その諸目は、彼の許に徴収者が運び、購入品や使用されるもの、ティラーズで飾られて作製されるものの代価に充当する。また、その他高き宝庫の収入として蓄えられる、国庫⁶⁰⁾から運ばれる資金を集めるように。

これら全てを彼は監督すべきであり、彼はそれについて、何が彼の許から出て行き彼の許に至ったかを監視するべきであり、彼はそれについて、〔txt. 162〕彼の許で保存され、彼の許におかれるように縫い付けられた⁶¹⁾布令に基づいて議論するべきである。

そのうえで、それらすべてを正しく監督するように。また、支出される代価と購入品の価値を正確に算出するように。彼に対して書かれラクダで運ばれてきた複数の書類の証明が互いに正しさを請け合うように、また、受領書（rağ‘a）がそのような証明に基づいて記されるよう、注意するように。使用人（mu‘āmil）たちが何らかの〔不正な〕方策を見つけることがないよう、また、多かれ少なかれ彼らが正当な取り分を超えては得られぬよう、彼らを監視するように。

あらゆる物を必要になる前に入手して、それが必要になる時のために保管しておき、請求すれば必ずや素早くそれが彼の許へもたらされるように。そこで求められる素早さとは、遅れたときにはそれを嫌って〔担当者が〕解任されてしまう〔ほど厳しい〕ものである。

忠実たれ、忠実たれ。誠実たれ、誠実たれ。この両者のいずれか一方でも、必ずや人を飾る衣装となる。もしもその両方が無かったとしたら、王が彼に語ったときに、「今日よりおまえは、我らの許で力あり信任厚き者となるのだ」〔クルアーン：12章54節〕と言って、彼に宝庫を委ねることもなかったであろう⁶²⁾。

57) bāhi. この語は非限定であるので本来 bāhin とされるべきであるが、yuḍāhi（比肩する）と韻をそろえるために、この形になったものと推測される。

58) ṭirāz. 刺繍が施された衣装や帯、旗。ウマイヤ朝時代以来、権威の象徴として用いられ続けた〔“ṭirāz,” EI2〕。

59) 校訂テキストでは awwal-hu となっているが、Ṣubḥ, v. 11 : 338に従って aw la-hu と読む。

60) bayt al-māl. 校訂テキストでは al-māl が脱落している。諸写本および Ṣubḥ, v. 11 : 339から補訂した。

61) tuṣakku. 名誉の衣に関する記述に由来する比喩表現と理解した。

62) 『クルアーン』の引用部分は、ファラオ（古代エジプト王）がヨセフに宝庫を任せたと逸話の中で交わされた会話の一部である。ここでは、スルターンがファラオ（王）に、宝庫のナールズイルがヨセフ（彼）に擬せられている。

国庫のナーズイル⁶³⁾に対する指示部分〔ms. 72a〕

以下のことを知るように。我らは次のような者にしか、このナーズイル職を任せはしない。すなわち、我らの目（‘ayn）であり、その許であらゆる現金（‘ayn）が守られ、財貨のあらゆる泉（‘ayn）を噴き出させる者である。また、諸官庁の諸目に関するすべての事柄は彼の許へと至り、その実り多い筆によって彼の蔭が広がるのである。

したがって、あらゆる序列を超えるこの地位へ昇るように。彼の運営のおかげで「一つの穀粒が七つの穂に育ち、それぞれの穂に100の穀粒ができる」〔クルアーン：2章261節〕かの如くなるよう、その財貨を増やすように。〔txt. 163〕

また、以下のことを知るように。彼は視線を集める⁶⁴⁾立場に立っており、カイロ（Miṣr）やその他の大都市は彼によって繁栄する。王国諸地方に散在する諸財源（ḡiha）に関する事柄すべてが彼の許に集められ、それらに関する計算書（ḥusbāna）が彼の許へと上げられる。彼には、よく見通す眼差しと注意深い耳と聞き入れられる言葉がある。見過ごされているあらゆるものを正し、酔って寝過ごしている者すべてを目覚めさせるべく、この命令を受け入れるように。近くのことと同様に、遠くの繁栄にも関心を向けるように。利益となることを優先するように。種播く者は刈り取り、植える者は収穫するのである。

幸いなる水車⁶⁵⁾と压榨所のこと、水車番（mudawlib）の熟練者を選抜すること〔に関心を向けるように〕。彼は熟視すべきことを見逃さないナーズイルではあるが。登録すべきときに諸地方〔の土地〕を登録すること。計測の際、多少であっても空き地がないように土地を測量すること（misāḥa）。官庁の諸財源〔に関心を向けるように〕。それらのうち〔自らが〕責任をもつべきもの（ḍamāna）は責任をもち⁶⁶⁾、預託（amāna）した方がよいと思われるものは任せること。書記たちや使用人たちの状態をよく観察すること。信頼できる者は少ないが、彼らのうち信頼できる者たちと〔仕事を〕続けること。替えるべき者は〔ms. 72b〕替えること。彼らの状態を精査し、誰も勝手ができると言うことがないようにすること。〔txt. 164〕

手許にあるものや、またその日の財を回すか、要不要の度合いに応じて残しておくかするものに関して問われた際に根拠となるものを教え知らせてくれる日々の出納簿⁶⁷⁾を求めるように。

以下のことを記録するように。すなわち、繁栄せる国庫のこと、そこへ運ばれるものとそこから支払われるもの、取られるものとそこで用意されるもの、送られて来る収穫物とそこ

63) nāzir al-māl.

64) 『クルアーン』14章42節を踏まえた表現。

65) dawlab. 原義是水車だが、畜力や人力で動くものも指している可能性がある。

66) taḍmīn. あるいは「徴税請負（ḍamān）に出すこと」を意味するのかもしれない。

67) maḥzūm. 綴り合せられるために穴が開けられた書類で〔Lane : 733–734〕、収支等が記録される出納簿に類するものである〔Nihāya/Nuwayri, v. 8 : 274, 260 ; 熊倉和歌子 2011 : 40頁〕。

へ届き保管される⁶⁸⁾もの。また、高き宝庫、それが必要とする出費、そこに集められる高貴なる下賜品、様々な等級の衣類。諸々の寛大なる庫⁶⁹⁾や幸いなる日用品・食料庫 (ḥawāiğ-ḥanāh) は、将来への蓄えとして、絶え間なく集められる補充品によって毎日、翌日のために備え、更新するように。また、スルターンの建造物、必要とされる支出〔を記録するように〕。〔修繕の必要の〕懸念が生じたり、諸作業や輸送のためのもの〔の必要〕が生じたりすれば、たとえどれほど多くても、それらのためには運べないほどのものが費やされる。また、幸いなる穀物庫とそこにある蓄え〔を記録するように〕。また、スルターンの製粉所、製粉について定められていること、牛の飼い葉、駄獣の飼料、言葉の途中で間違えることが知られているもの⁷⁰⁾〔を記録するように〕。

費用の増加、もしくは軽いと思っていでも重荷になる新たな財〔の負担〕に注意するように。多いところに僅か〔な増加〕でも多いのであり、それは小さくとも我らにとっては大きいのだということを知るように。どうしてそうでないことがあろうか。それは神の財であり、我らはその番人なのである。〔ms. 73a〕我らは、それを公正に支出する。その支出によって、最後の審判の日に公正さの量目が軽くなるか、重くなるかするのである。〔txt. 165〕

調べよ、調べよ、諸状況の説明を隅々まで⁷¹⁾記録 (taḥrīr) するように命じて。それらは果てのない海であることを知るように。危険を冒しても称えられないのである。それらのことに精通するように。矛盾があったり、草稿の修正や清書の際に間違える者もいたりするのだから。保護されしシリア諸州のことは、彼のうるわしき監督に任され、直接的、間接的な注意に委ねられており、それは遠くではあるが、彼の筆と庇護の管轄の範囲内のことである。覆い隠されたもの⁷²⁾が隠し通されることのないよう、それらの計算書を求め、それらに注意を向けることを怠らないように。曖昧なものや新たに増えたものについては、何に依拠し、何を信頼し信頼すべきでないかを我らが命じられるよう、我らに報告するように。

随伴主計⁷³⁾に対する指示部分

彼は筆を監督する者であり、エジプトとシリアを任された者であり、配置や恩寵のたびにそれを記すゆえに善行が望まれる者であり、随伴主計としてスルターンの行住に常に付き従う者であり、各序列に配慮する者であり、その記録が頼られる者であり、その決裁でことが行われる者であり、すべての事柄でその判断が仰がれる者である。あらゆる調査を記録するか、〔そこから〕手を引くかは彼による。彼の書き付けがなければ、任用も免職も完了しな

68) 「保管される」と訳した語は、校訂では yuḥarraru と読めるが、そのままでは意味が通りにくい。B [f. 56a], D1 [f. 102a], D2 [f. 66b], F [f. 77b] 写本によって、yuḥrazu と読んだ。

69) bayt karīm. このように呼ばれることもあった衣類保管庫 (ṭišt-ḥanāh), 飲料貯蔵庫 (ṣarāb-ḥanāh) 等、スルターンの諸々の庫を指す [Ṣubḥ, v. 4 : 9–13]。

70) 「飼い葉 (‘alūfa)」と「飼料 (‘alīq)」の2語が取り違えられやすいということか。

71) 校訂テキストでは、gāyah と語末が hā’ となっているが、tā’ marbūṭa の誤植である。

72) 校訂テキストでは、muḥabba’ah と語末が hā’ となっているが、tā’ marbūṭa の誤植である。

73) mustawfī al-ṣuḥba.

い。彼は我らに代わって、すべての計算書を点検する者であり、ものの有無を監視する者〔txt. 166〕である。書記たちの筆を精査する者〔ms. 73b〕であり、尋問者であり、彼が発言すれば、書記たちのうち知識ある者が〔返答して〕発言する。隠されたことを明らかにする者であり、秘密を明かす者である。対立が起こったり、破局に至ったりした場合には、その手許にあるもの（記録）が正しいと皆が一致して認める者である。

書記たちに割り当てられている以下のことを行わせるように。担当の徴税区（‘amal），その確実な調査（taḥrīr），元金への課税（ḍaribat ra’s al-māl），作成が義務付けられている場合には納税簿⁷⁴⁾の作成，土地の測量。そしてそれらの収入を詳しく調査するように。また彼らにそれら各々の価値を区別させ，全ての地方における登録された面積（faddān）と，各々の土地における可耕地の面積との違いを区別させるように。また台帳（ḡarīda）や，イクター庁とアフバース庁⁷⁵⁾が照合するもの，これ以外のものを曖昧な点がないよう更新させるように。

汝⁷⁶⁾のような者にはもはや教えることはなく，異論を差し挟む余地もない。随伴主計から〔提出される〕全てのものは快く受け入れられる。各々の職の保持者に対して指示される事柄について，彼は必ず知っており，十分理解している。全ての基盤（milāk al-kull）は，神への畏れと信頼であり，両者は守りの盾と永遠の楽園である。この両者は身を覆う非常に長い外套とベールで知られており，それは彼と彼が雇う助手や代理たちを守っている。至高なる神は，最も高い序列に彼を至らせ，我らの高貴なる王国の富を細大漏らすことなく数え立てる⁷⁷⁾彼の筆を走らせしめる。

74) mukallafa. 土地測量（qiyās）によって確定された税収高，地積数，耕地の種類などを記録したもの〔佐藤次高 1986：228頁〕。

75) diwān al-iqtā’ wa [diwān] al-aḥbās. アフバース庁は一種の恩給地であるリザクを監督する部局〔Ito 2003：49－51, 61－62〕。

76) この部分のみ，被指示者である随伴主計が2人称単数男性の代名詞（-ka）で示されている。他の箇所では3人称男性単数として言及されている。

77) 『クルアーン』18章49節を踏まえた表現。

参考文献および略称

『高貴なる用語の解説』活字本

al-'Umari, Šihāb al-Dīn Aḥmad b. Yaḥyā b. Faḍl Allāh. *al-Ta'rif bi-al-muṣṭalaḥ al-šarīf*. (『高貴なる用語』)

校訂：al-Ta'rif bi-al-muṣṭalaḥ al-šarīf l-Ibn Faḍl Allāh al-'Umari. (Vol. 2 of *A Critical Edition of and Study on Ibn Faḍl Allāh's Manual of Secretaryship "al-Ta'rif bi'l-muṣṭalaḥ al-šarīf"*.) Ed. Samir al-Droubi. al-Karak: Mu'ta University, 1992.

ペイルート版：al-Ta'rif bi-al-muṣṭalaḥ al-šarīf. Ed. Muḥammad Ḥusayn Šams al-Dīn. Bayrūt: Dār al-Kutub al-'Ilmiya, 1988.

『高貴なる用語の解説』写本

B : Ms. 8639. Deutsche Staatsbibliothek, Berlin.

D1 : Ms. Adab 57. Dār al-Kutub al-Miṣrīya, al-Qāhira.

D2 : Ms. Adab 2134. Dār al-Kutub al-Miṣrīya, al-Qāhira.

F : Ms. Arabe 5872. Bibliothèque Nationale, Paris.

L : Ms. 659. Karl Marx Universität, Leipzig.

Ld : Ms. Or. 352. Universiteit Leiden, Leiden.

S1 : Ms. Árabe 1639. Real Biblioteca del Monasterio, Escorial.

S2 : Ms. Árabe 1640. Real Biblioteca del Monasterio, Escorial.

Sh : Ms. Add. 7466 Rich. British Library, London.

『高貴なる用語の解説』訳注

訳注（1）：谷口淳一編「アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注（1）」『史窓』67号（2010年）：27－65頁。

訳注（2）：谷口淳一編「アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注（2）」『史窓』68号（2011年）：51－94頁。

訳注（3）：谷口淳一編「アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注（3）」『史窓』69号（2012年）：19－53頁。

訳注（4）：谷口淳一編「アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注（4）」『史窓』70号（2013年）：31－49頁。

訳注（5）：谷口淳一編「アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注（5）」『史窓』71号（2014年）：1－24頁。

辞典類

岩波イスラーム辞典：大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』岩波書店，2002年。

新イスラーム事典：日本イスラーム協会他監修『新イスラーム事典』平凡社，2002年。

EI2 : Gibb, Hamilton Alexander Rosskeen, et al., eds. *Encyclopaedia of Islam*. New edition. 12vols. and index volume. Leiden: Brill, 1960－2009.

Lane : Lane, Edward William. *Arabic-English Lexicon*. 8vols. London, 1863－1893. Revised ed. 2vols. 1984. Cambridge: The Islamic Texts Society, 2003.

史料・史料訳注

イブン・ジュバイル：イブン・ジュバイル『イブン・ジュバイルの旅行記』藤本勝次・池田修監訳，講談社〈講談社学術文庫〉，2009年。

クルアーン（井筒訳）：『コーラン』井筒俊彦訳，改版。全3冊，岩波書店〈岩波文庫〉，1964年。

クルアーン（藤本他訳）：『コーラン』藤本勝次他訳。全2冊，中央公論新社〈中公クラシックス〉，2002年。

クルアーン（三田訳）：『日亜対訳・注解 聖クルアーン』[三田了一訳]，改訂版，日本ムスリム

協会, 1982年.

世界史史料2: 歴史学研究会編『南アジア・イスラーム世界・アフリカ——18世紀まで——』(世界史史料第2巻), 岩波書店, 2009年.

Buldān: al-Ḥamawī, Šihāb al-Dīn Yāqūt b. ‘Abd Allāh. *Mu‘ğam al-buldān*. Ed. F. Wüstenfeld. 6vols. Leipzig: Der deutschen morgenländischen Gesellschaft, 1866 – 1873. Tehrān, 1965.

Ibn Ġubayr: Ibn Ġubayr, Abū al-Ḥasan Muḥammad b. Aḥmad. *Taḍkira bi-al-aḥbār ‘an ittifaqāt al-asfār* (*Riḥlat Ibn Ġubayr*). Ed. William Wright. 1852. 2nd and rev. ed. M. J. De Goeje. Leiden and London: E. J. Brill, 1907. Rpt. Frankfurt am Main: Institute for the History of Arabic-Islamic Science at the Johann Wolfgang Goethe University, 1994.

Nihāya/Nuwayrī: al-Nuwayrī, Šihāb al-Dīn Aḥmad b. ‘Abd al-Wahhāb, *Nihāyat al-arab fī funūn al-adab*, 33vols. al-Qāhira: al-Hay’a al-Miṣriyya al-‘Āmma li-l-Kitāb; Maṭba‘at Dār al-Kutub wa al-Waṭā‘iq al-Qawmiyya bi-al-Qāhira, 1923 – 1997.

Ṣubḥ: al-Qalqaṣandī, Šihāb al-Dīn Aḥmad b. ‘Alī. *Ṣubḥ al-a‘šā fī šinā‘at al-inšā’*. 14vols. al-Qāhira, 1913 – 1920. al-Qāhira: Wizārat al-Taḳāfa wa al-Iršād al-Qawmī, 1963.

研究

太田(塚田) 絵里奈「後期マムルーク朝有力官僚の実像——ザイン・アッ=ディーン・イブン・ムズヒルの家系と経歴——」『史学』83号2・3号(2014年): 37 – 81頁.

熊倉和歌子「マムルーク朝時代の官庁における会計帳簿」高松洋一編『イラン式簿記術の発展と展開——イラン, マムルーク朝, オスマン朝下で作成された理論書と帳簿——』共同利用・共同拠点イスラーム地域研究拠点(東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室), 2011年: 37 – 53頁.

佐藤次高『中世イスラム国家とアラブ社会』山川出版社, 1986年.

al-Droubi, Samir. *A Critical Edition of and Study on Ibn Fadl Allāh’s Manual of Secretaryship “al-Ta’rif bi’l-muṣṭalaḥ al-sharīf.”* 2vols. al-Karak: Mu’ta University, 1992. (『高貴なる用語』のテキストが収められている巻は「校訂」, 作品研究の巻は「研究篇」と略称。)

Diem, Werner. *Ehrendes Kleid und ehrendes Wort: Studien zu Taṣrīf in mamlūkischer und vormamlūkischer Zeit*, Würzburg: Ergon Verlag, 2002.

Dozy, Reinhart Pieter Anne. *Dictionnaire détaillé des noms des vêtements chez les Arabes*. Amsterdam: Jean Müller, 1845. Beirut: Librairie du Liban, n.d.

Ito, Takao. “Aufsicht und Verwaltung der Stiftungen im mamlukischen Ägypten,” *Der Islam* 80 (2003): 46 – 66.

Silverstein, Adam J. *Postal Systems in the Pre-Modern Islamic World*. Cambridge: Cambridge University Press, 2007.